

明日 への 話題

コロナ禍の 中で



公益財団法人 資本市場研究会
理事長

はやし
林

まさかず
正和

明けましておめでとうございます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染防止策と急激に落ち込んだ経済、社会活動の立て直し策というこれまでに経験したことの無い対応に追われ続けた一年でした。私たちの生命、健康に直接関係する問題だけに、課題は極めて広範なものとなりました。日々の細々とした生活のルールから始まり、職場や学校での体制、そこでの働き方、更に経済社会の構造等様々な指摘がなされています。ちょっとした心遣いで対応できるもの、相応の経済的負担や技術習得が必要なもの、更には長期にわたる課題として粘り強く取り組んでゆくべきもの等その性格も区々です。マスクの着用、頻繁な手洗消毒、リモート会議等高齢の私も及ばずながら、徐々に慣れてきたようです。しかし、関係者のご尽力にもかかわらず、新規感染者は増え続けています。結局、有効なワクチンなり特効薬が普及するまでは、社会の対応としては、感染防止と経済立て直しのバランスを微妙にとってゆく以外に途は無いのでしょうか。そのためには、引き続き中央地方政府の施策が不可欠と思われます。感染防止と経済的弱者への対応等努力が更に求められるでしょう。他方でこうした施策の積み重ねの結果生じた巨額の財政赤字について、これを危惧する声が強まっているのも事実です。欧米各国でも同様ですが、わが国の場合は尚更なことは言うを俟ちません。従って、支払面では真に必要な施策に限って計上する努力を期待するとともに、国民から指弾されるようなことの無いよう適正な執行にも努めてほしいものです。そして財政全体の立て直しの姿をどう描くのか、長期の課題として真剣な議論をあわせて期待したいと思います。多くの識者も言われるように、経済成長だけではもはやこの財政問題には対応できません。社会保障を中心とした支出と収入両面で将来に向けた道筋を描く努力をしてほしいものです。このコロナ禍はいずれ収束するでしょうが、新たな感染症や巨大化する自然災害等に備えるためにも、こうした努力を今から重ねてほしいと思います。